

第1. 2. 6年〇〇〇〇学級 国語科学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

1 題材 「はらぺこ あおむし」のえほんをつくろう

2 指導観

○本学級には、1年生1名、2年生1名、6年生2名の計4名の子どもたちが在籍している。3年生程度の漢字が読み書きでき音読が好きな6年生2人と、単語レベルのやりとりで文字の獲得段階にある1, 2年生がいる。学習態度については、どの子も意欲的にがんばる姿があるが、持続性や根気強さは不十分である。

	話す・聞く	書く	読む
A 児 (1年)	○動作を交えながら、単語一言で表現する。発音がまだ不明瞭。「食べる」等単語の理解が少しできる。	○自分の名前の文字が、3文字ほど書けるが、まだ、たどり書きの段階である。	○ひらがな50文字のなかで、自分の名前の字が詠める。登場人物はわかるが、場面の理解が難しい。
B 児 (2年)	○動作を交えながら、二語文程度の話ができる。発音がまだ不明瞭。「お腹痛い」等の身近な二語文がだいたい理解できる。	○50音がほとんど書け濁音もだいたい書けるようになった。自分ひとりで書ける字が多くなっているが、まだ、たどり書きや見て書く段階である。	○清音だけでなく、濁音半濁音、幼長音、撥音、促音が少し読める。一字ずつゆっくり読む。登場人物を覚え、場面の理解が少しできる。
C 児 (6年)	○自分の気持ちや見たことを積極的に話し、三語文程度話せる。四年生程度の話の理解ができる。	○六年生までの漢字はだいたい読め、三年生程度の漢字を書く。正確な書き順や丁寧な書き方ができる。	○音読をととても好み、四年生程度の内容は、初読でも上手に読める。内容もだいたい理解できる。
D 児 (6年)	○文としてきちんと話すのがやや苦手だが、理解としては五年生程度の話の理解ができる。	○六年生までの漢字は良く読め、四年生程度の漢字を書くが、なかなか正確な形が取りにくく、乱雑な字になる。	○読書が大好きであるが、音読はやや速くなる傾向になる。内容もだいたい理解できる。

○本題材は、「はらぺこあおむし」という物語を、パネルシアターやペープサート、劇化などしながら、お話を繰り返し楽しみ、言葉や想像力を豊かにし、自分のおはなし絵本を作っていく学習である。日曜日に生まれたはらぺこあおむしが、月曜日から毎日違う果物を食べて大きくなり蝶に育っていくストーリーは、子どもたちになじみ深く明快な場面展開であり、粗筋をつかみやすい。登場人物がずっと同じあおむしで、果物との関係も単純で捉えやすいと同時に、最後に蝶に変身する意外性があり、子どもたちの想

像力を膨らませ自分なりのアイデアでふきだしを書いたり続きの話を創作したりすることができる。また、各場面で登場人物と物の関係を取り出しやすく、切り絵で表現したり、動作化・劇化したり、自分の「おはなし絵本」を作ったりすることができる。

パネルシアターは、絵本の読み聞かせだけでは理解が難しい子どもたちにも、登場人物や場面に関心を持たせ、物語の粗筋を追っていきける良さがある。

ペープサートは、切り絵を操作する動きがあるので、登場人物と物の関係をとらえたり場面によるストーリー展開を理解しやすい良さがある。

劇化は、子どもたちがお面をつけて登場人物になって動作化をすることにより、登場人物の行動を追体験し、想像力を豊かにし、言葉を広げる良さがある。

「おはなし絵本」作りは、挿し絵や言葉を物語の筋に沿って並べていきながら、パネルシアターやペープサート、劇化の過程で広げた言葉を深めていくことができる。また、場面相互の関連性も理解が深められ、話に広がりが見られるようになり、各場面の関係づけができるようになる。

○ 本題材の指導にあたっては、一人一人の実態に応じた三種類の文章の絵本を準備する。A 児には、単語をなぞり書きする段階の子ども用として、物の名前だけを書いた絵本を用意する。B 児には、ひとりで単語を書く段階の子ども用として、物の名前と動作を表す言葉だけを書いた絵本を用意する。C、D 児には、自分で全文を書く子ども用として、原本と同じ内容の絵本を用意する。

出会いの段階では、「はらぺこあおむし」の絵本の読み聞かせでお話に出会い、おはなし絵本作り活動で取り扱う登場人物の絵や挿し絵、ペープサートの切り絵、言葉カードを提示し、学習活動の手順を概括し見通しを持たせる。

おはなし絵本作りの段階では、①パネルシアターで登場人物や物に着目しておはなし絵本を作る。②ペープサートでは、曜日の名前と動きを表す言葉に着目して、おはなし絵本を作る。③劇化では、話の筋に着目しておはなし絵本を作る。という段階を通しておはなし絵本作りを高めていく。

まとめの段階では、自分で作った「おはなし絵本」を友達に発表、表現する。

3 目標

- 物語に興味を持ち、パネルシアター、ペープサート、劇化などを意欲に取り組み楽しむことができる。
- 物語の粗筋をつかんだり、絵と言葉や文をつないだり、想像したことを文に表したりして、おはなし絵本を作ることができる。

4 計画（10時間）

- 1 「はらぺこあおむし」のおはなし絵本に出会う。（1時間）
- 2 おはなし絵本作りの活動をする。（8時間）
 - (1) パネルシアターでおはなし絵本作りをする。①
 - (2) ペープサートでおはなし絵本作りをする。③（本時2／3）
 - (3) 劇でおはなし絵本作りをする。②
 - (4) 自分なりの「はらぺこあおむし」のお話を作る。②
 - ・パネルシアターでおはなし絵本作りをする。
 - ・ペープサートでおはなし絵本作りをする。
- 3 おはなし絵本作りを発表、表現する。（1時間）

5 本時

平成21年10月19日（月）5校時 ○○○○学級

6 本時の目標

- おはなし絵本の筋に沿って、登場人物や物のペープサートを操作しながら、曜日の名前と動きを表す言葉に着目しておはなし絵本にまとめることができる。
- 挿し絵の中に曜日や動きを表す言葉を書き込んだり、自分で想像した会話文を書き込んだりすることができる。

個別の目標

児童	目 標
A 児	教師の指さしや問いかけを頼りに、教師と一緒にペープサートを操作しながら、登場人物や物に着目して切り絵と言葉（名詞）を合わせ、たどり書きすることができる。
B 児	教師の指さしや問いかけを頼りに、教師と一緒にペープサートを操作しながら、登場人物や物に着目して切り絵と言葉（名詞、動詞等）を合わせ、お手本を見ながら書くことができる。
C 児 D 児	絵本の筋に沿って、ペープサートを操作しながら、様子を表す文や会話文を想像して書き込み、おはなし絵本作りをすることができる。

7 本時指導の考え方

子どもたちは前時まで、「はらぺこあおむし」のおはなし絵本に出会い、パネルシアターやペープサートの活動を通して、興味を持っておはなし絵本作りに取りかかり始めたところである。

そこで本時は、再度ペープサートを操作しながら、登場人物の動きに着目させ、場面絵と言葉（事物名称語、動きを表す言葉）をつないでおはなし絵本作りに取り組む活動である。

導入では、再度ペープサートを操作しながら読み取ったことを思い出させ、登場人物や粗筋を確認していく。次に、子どもたちの役割分担を決め、ペープサートをみんなで操作しながら、動きを表す言葉に着目させ言葉や文につなげていく。

その後、各自のおはなし絵本作りに取り組ませる。A 児、B 児は教師と一緒に、場面ごとに切り絵を選び登場人物と物の名前や動きを表す言葉を貼ったり書いたりしてまとめていく。C 児、D 児は、全部の場面絵を使って、話の筋に沿って会話文を書き込んで絵本を作り上げていく。時間が余ればプリント学習に取り組ませる。最後に、それぞれが作った絵本を発表しあうことで、満足感や充実感を味わわせたい。

8 準備

ペープサートの場、各自まとめる絵本、単語カード、単語を書く用紙、場面絵
各自のペープサート

9 本時の学習過程

主 な 学 習 活 動			支 援
1, 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (1) 前時を想起する。 ・ペープサートを操作しながら、登場人物や物、粗筋などを思い起こす。 (2) 本時学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ペープサートをして、おはなし絵本作りをしよう。 </div>			○ペープサートを操作して、登場人物や物、粗筋を確かめる。 ○ペープサートの場と各自作った絵本を提示して、見通しを持たせる。 A 児 登場人物や物の名前をゆっくり言わせる。 B 児、D 児 ゆっくり音声化するように声をかける。
A 児	B 児	C 児・D 児	
(1) ペープサートを操作して、自分の言葉で表現する。			C 児 想像がふくらむように声かけをする。
登場人物や物の名前を言う。	登場人物や物の名前動き言葉を言う。	人物の行動や話した事を詳しく話す。	
(2) 読み取った事を、カードを貼ったり文章で書いたりする。			A 児 登場人物や物と単語カードが対応するように声をかける。 B 児 見本をよく見て書くように声をかける。 C 児 話の順番に気をつけさせ想像を豊かにするような声かけをする。 D 児 ゆっくり丁寧に書くように気をつけさせる。
①切り絵を貼る。 ②単語カードを見本を見ながら貼る。	①切り絵を貼る。 ②見本を見ながら名称や動きの言葉を書き込む。	①話の筋に沿って場面絵を貼る。 ②見本の文だけでなく、様子を想像した文や会話文を付け加えて書く。	
3, 本時学習を振り返り、次時の見通しを持つ。 (1) 本時学習を振り返る。 ・自分の絵本作り活動を発表する。 (2) 次時のめあてを持つ。			○一人一人の良いところを誉め合う。